

[平成11年度 普及に移す技術]

シバザクラ(Phlox subulata L.)の効率的な挿し芽繁殖法							
[要約]シバザクラの挿し芽繁殖における発根適温は20℃、好適照度は2,500lx以上である。9月採取における挿し穂の貯蔵可能期間は、0℃で30日、5℃では15日である。							
農業試験場・園芸・バイオ部・花き研究グループ						契機	普及
部会名	野菜・花き	専門	栽培	対象	緑化植物	分類	指導

[背景・ねらい]

地被植物は畦畔等に栽植して、景観向上と雑草の発生抑制のために各地で利用されている。シバザクラはその有効な植物であるが、種子繁殖をしないため、主として挿し芽で繁殖が行われている。最近、苗の需要が高まり大量生産が必要になっているので、苗生産農家の大量増殖のための基礎となる挿し芽繁殖条件を明らかにした。

[技術の内容・特徴]

1. 挿し芽の発根適温は20℃であり、15℃以下や25℃以上では発根率が低下し根量も少なくなる(表2、図1)。
2. 挿し芽の発根に必要な照度は2,500lx以上であり、照度が高くなるにつれて発根率が増加し根量も多くなる(表2、図2)。
3. 挿し穂の好適貯蔵温度は0℃で、30日間の貯蔵が可能で80%の発根率が得られる。また5℃では発根率が67%とやや劣るが15日間の貯蔵が可能である(表1、2)。

[技術の活用面・留意点]

1. 15~25℃の温度と、2,500lx以上の照度を確保できる施設を用いれば、周年生産ができる。
2. 挿し芽後4週間程度は挿し穂が乾燥しないように充分灌水する。ビニル等で密閉したりミスト灌水するのも有効である。
3. 貯蔵は、挿し穂表面の水分を除きポリ袋等に入れて密封し、暗黒下に置く。
4. 挿し穂は、栄養状態の良い充実したものをを用いる。

[具体的データ]

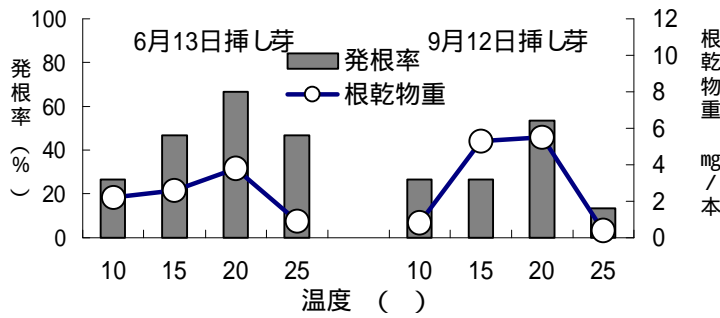


図1 温度が発根に及ぼす影響

照度:2,500lx

発根率:発根した個体数/全挿し芽個体数×10

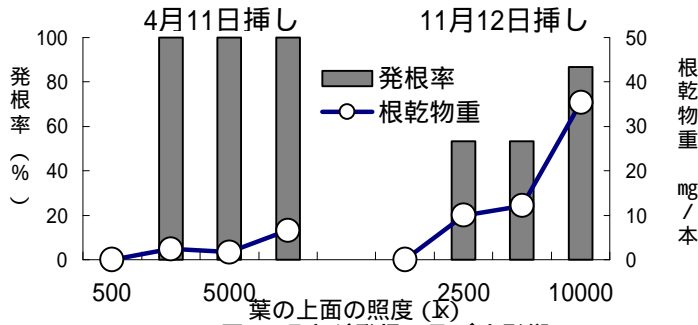


図2 照度が発根に及ぼす影響

温度:20

発根率:発根した個体数/全挿し芽個体数×10

表1 貯蔵温度および期間が発根に及ぼす影響

貯蔵温度 (°C)	貯蔵期間 (日)	発根率 (%)
0	15	80.0
	30	80.0
	45	33.3
	60	20.0
5	15	66.7
	30	46.7
	45	20.0
	60	0.0
10	15	20.0
	30	46.7
	45	0.0
	60	0.0
貯蔵なし (対照)		80.0

挿し 日

挿し穂採取後穂長を調整し処理を開始。貯蔵期間終了後挿し芽。

温度20、3,000lxで育苗

発根率:発根した個体数/全挿し芽個体数×100

表2 試験材料および方法(全試験共通)

供試品種	「ダニエルクッション」
育苗場所	恒温器内
光源	白色蛍光灯、12時間日長
穂の調整	穂長5~7cmに調製 (頂芽を含む)
育苗床土	山砂
施肥方法	無肥料
調査時期	挿し芽から8週間後